

## そのサイト 本当に公式サイト ですか

### 事例

パソコンに不具合が出たので、検索サイトでメーカーのサポートセンターを検索。一番上に表示されたサイトを公式サイトと思ってアクセスした。「500円で専門家サポート」という画面が出たので、クレジットカードで決済し、アドバイスを受けた。3か月後に毎月4000円がカードで引き落とされていることに気が付き、利用したのはメーカーとは全く関係ない質問サイトだったと分かった。

買ったつもりがチケット転売サイトだった「大手航空会社のサイト」と思い航空券を買ったら、旅行会社だった「米国短期滞在ビザ(E-Visa)を大使館に申請したつもりが、申請代行サイトだった」などのケースがあります。

公式サイトでなくても目的のサービスは受けられますが、正規料金に比べて高額だったり、別途手数料がかかったりします。別サイトと分かって解約しようとしても、解約できない、解約料が必要などの苦情も発生しています。

公式サイトを探す際は、検索で挙がった候補に「公式」の表示があるか、URLに業者の名称が記載されているかを確認しましょう。また、開いたサイトを一番下までスクロールして、「会社概要」や「特定商取引法の表記」を参照することで、公式とは違うサイトと気付ける場合もあります。

検索結果の最上位は公式サイトで安心という思い込みは捨て、検索段階から細心の注意を払きましょう。

### 消費生活センター

GoogleやYahoo!などの検索サイトで上位に表示されたサイトを、公式サイトと誤って取り引きしたが、全く違うサイトだったという相談が寄せられています。事例以外にも、「タレントの公式サイトでチケットを

買ったつもりがチケット転売サイトだった「大手航空会社のサイト」と思い航空券を買ったら、旅行会社だった「米国短期滞在ビザ(E-Visa)を大使館に申請したつもりが、申請代行サイトだった」などのケースがあります。

TEL 6319・1000  
FAX 6319・1500